

令和4年度病害虫発生予察注意報(第3号)の発表について

水稻の病害の一つであるイネ縞葉枯病が、近年、県西地域、県南の一部地域を中心に発生が多く見られています。本年2～3月の調査でも媒介虫であるヒメトビウンカ越冬世代幼虫のイネ縞葉枯ウイルス保毒虫率(ウイルスを持った虫の割合)が高い地点が認められたため、次作で本病が多発する可能性があり、減収等の大きな被害が生じる恐れがあります。

病害虫防除所では、本病の被害を最小限に抑えるため、田植え前の苗への薬剤施用による防除の励行を喚起する内容の病害虫発生予察注意報を発表しました。

○病害虫発生予察注意報

「病害虫発生予察注意報」は、病害虫の多発生により農作物に大きな被害が発生すると予想され、かつ早急に防除対策を講じる必要がある場合に発表します。

○イネ^{しまはがれびょう}縞葉枯病

イネ縞葉枯病は、ヒメトビウンカ(写真1)という体長約3～4mmの害虫により媒介されるウイルス病です。イネは、イネ縞葉枯ウイルス(略してRSV)を持ったヒメトビウンカ(保毒虫)に吸汁されると本病に感染します。発病すると葉の緑色がかすり状に黄化し(写真2)、生育が不良となります。特に生育初期に発病すると、葉先から‘こより状’に垂れ下がって株が枯れ上がり(写真3)、出穂期に発病すると、穂が奇形となり(写真4)、イネが稔らなくなるため減収します。

○媒介虫のヒメトビウンカ

幼虫は、水田畦畔や土手等のイネ科雑草で越冬します。4月上旬頃になると成虫になって麦圃場等に飛来します。麦圃場等で増殖した後、6月上～中旬頃、成虫が水田に飛び込み、イネの汁液を吸いながら数世代増殖します。ヒメトビウンカは、RSVに感染したイネを吸汁すると保毒虫となり、死ぬまでウイルスを媒介し続けます。また、保毒虫が産卵した卵から生まれた幼虫の多くはウイルスを保毒しているため、本病の多発地域では翌年も発生する可能性が高くなります。

○本年におけるヒメトビウンカ越冬世代幼虫のRSV保毒虫率

病害虫防除所では、毎年2月～3月上旬頃、越冬中の幼虫を採集し、RSV保毒虫率を調査しています。近年、県西地域及び県南の一部地域において保毒虫率が高い状態が続いています。本年の調査結果では、県西・県南地域15地点中7地点で5%以上^{*}の高い保毒虫率となっており、引き続き、対策の手を緩めず、ヒメトビウンカの防除を行っていく必要があると考えられます。

※県では、ヒメトビウンカ越冬世代幼虫のRSV保毒虫率(ウイルスを持った虫の割合)5%以上を、薬剤の育苗箱施用による防除を推奨する目安としています。

○防除対策

イネ縞葉枯病はウイルス病であり、発病してから治療する方法はありません。したがって、イネがウイルスに感染しないよう、本病を媒介するヒメトビウンカを防除することが重要です。ヒメトビウンカの防除には薬剤散布や水田の秋季耕起などが有効です。なかでも、これから行う防除法としては、田植え前のイネの苗にヒメトビウンカを対象とした薬剤を施用することが重要です。併せて、本病の発生が多い地域では、6月中下旬頃に水田に薬剤散布を行うと防除効果が高まります。なお、今後の気象条件によって6月の薬剤散布の適期が変わるため、当所が5月末に発表する病害虫発生予報6月号にて散布適期の情報提供を行う予定です。



写真1 ヒメトビウンカ雄成虫（左）及び幼虫（右）
（成虫は体長約3～4mm、幼虫は体長約1～2mm）



写真2 イネ縞葉枯病による
葉の退緑症状



写真3 イネ縞葉枯病による
生育初期の症状



写真4 イネ縞葉枯病による穂の
奇形

注意報

茨城県病害虫防除所

令和5年3月22日

病害虫発生予察注意報 第3号

イネ縞葉枯ウイルス保毒虫率が高い地点が認められています！

対策の手を緩めず、引き続きヒメトビウンカの防除を行いましょう！

[発表の内容]

作物名 : 水稲
病害虫名 : イネ縞葉枯病 (ヒメトビウンカ)
発生量 : 多い
発生地域 : 県西地域、県南の一部地域

[発表の根拠]

- ① 令和5年2~3月に県西、県南地域の水田畦畔等から採集したヒメトビウンカ越冬世代幼虫におけるイネ縞葉枯ウイルス保毒虫率 (以下、保毒虫率) を調査した。その結果、15地点中7地点で、保毒虫率が5%以上*の高い値となった (表1)。

* 農業研究所作成のマニュアルにおいて、育苗箱施用等による薬剤防除を推奨する値

表1 ヒメトビウンカ越冬世代幼虫のイネ縞葉枯ウイルス保毒虫率

地域	調査地点	保毒虫率 (%) ¹⁾					
		平成31年	令和2年	令和3年	令和4年	令和5年 ²⁾	
県西	古河市 水海	26.6	— ³⁾	5.9	3.2	2.7	
	結城市 大谷瀬	13.3	8.5	7.4	5.9	5.3	
	下妻市	大園木	18.0	17.0	10.1	6.9	3.7
		大宝	26.6	19.7	13.3	2.1	3.7
	常総市 本豊田	17.6	11.2	11.2	4.8	8.5	
	筑西市	久地楽	19.7	5.9	12.2	7.0	8.1
		二木成	24.5	34.6	11.2	6.4	5.9
	坂東市 矢作	—	—	2.7	4.8	2.1	
	桜川市	加茂部	7.4	2.7	6.4	2.1	1.1
		真壁町白井	8.5	8.5	7.4	3.2	2.7
八千代町 高崎	23.9	38.8	12.8	6.9	11.7		
石岡市 柿岡	19.3	—	5.9	—	7.1		
県南	つくば市 大形	14.9	13.8	3.7	2.7	1.6	
	かすみがうら市 一の瀬上流	8.6	—	2.1	0	0.5	
	つくばみらい市 市野深	—	—	5.3	3.7	9.0	

1) 簡易ELISA法により検定

2) 採集日 : 令和5年2月2、3、6、8、9、27、28日、3月1日 検定日 : 令和5年3月6、7日
サンプル数 : 各地点188頭、但し、石岡市柿岡は127頭

3) — : 未調査

[防除対策]

- ① 引き続き、ヒメトビウンカ防除を目的とした薬剤の育苗箱施用を行う。防除薬剤は表2を参考に選択する。今回の調査結果でも保毒虫率が高い地点が認められており、対策の手を緩めると、本病が多発生する可能性がある。
- ② 近年育苗箱施用を行っても発病が多かった地域では、表3を参考として、6月中下旬頃にヒメトビウンカ幼虫を対象とした薬剤の本田散布を行う。本田散布の適期は、気象条件によって変わるため、当所が5月末に発表する病害虫発生予報6月号を参考にする。
なお、育苗箱施用と本田散布の体系防除を行う場合は、薬剤抵抗性の発達を抑えるため、IRACコードの異なる薬剤を使用する。
- ③ 当所では5月下旬～6月上旬の麦圃場におけるヒメトビウンカの保毒虫率を調査するので、その情報も参考にする。

表2 水稲のヒメトビウンカ防除に使用できる主な薬剤【育苗箱施用】 (令和5年3月1日現在)

薬剤名	本剤の使用回数	有効成分の種類	同左毎の総使用回数	IRACコード ¹⁾
ゼクサロンパディート箱粒剤	1回	トリフルメゾ [®] ピ [®] リム	1回	4E
		シアントラネリブ [®] ロール	1回	28
フェルテラゼクサロン箱粒剤	1回	トリフルメゾ [®] ピ [®] リム	1回	4E
		クロラントラネリブ [®] ロール	1回	28
フェルテラチェス箱粒剤 ²⁾	1回	ピ [®] トロジ [®] ン	3回以内 ³⁾	9B
		クロラントラネリブ [®] ロール	1回	28
リディアNT箱粒剤	1回	フルピ [®] リミ [®] ン	3回以内 ³⁾	4F
アレス箱粒剤	1回	オキサジ [®] スル [®] フィ [®] ル	1回	— ⁴⁾

1) 殺虫剤抵抗性対策委員会（IRAC）により、殺虫剤の有効成分を作用機構により分類し、コード化したもの

2) ヒメトビウンカ対象に使用する場合、防除効果を考慮して使用時期は「移植3日前～移植当日」を推奨する。

3) 但し、移植時までの処理は1回以内、本田では2回以内

4) 未分類

表3 水稲のヒメトビウンカ防除に使用できる主な薬剤【本田散布】 (令和5年3月1日現在)

薬剤名	本剤の ¹⁾ 使用回数	有効成分の種類	同左毎の総使用回数	IRACコード ²⁾
スミチオン乳剤	2回以内	MEP	3回以内 ³⁾	1B
トレボン乳剤	3回以内	エトフェン [®] ロックス	3回以内	3A
エクシードフロアブル	3回以内	スルホキサ [®] フロ [®] ル	3回以内	4C

1) 使用方法「散布」の登録内容

2) 殺虫剤抵抗性対策委員会（IRAC）により、殺虫剤の有効成分を作用機構により分類し、コード化したもの

3) 但し、種もみへの処理は1回以内、育苗箱散布は1回以内、本田では2回以内

(注意事項)

- ・ 農薬を使用する際は、ラベルに記載されている使用基準、注意事項を必ず確認のうえ使用する。
- ・ 飼料用として作付けしている稲へ農薬を使用する際は、「飼料として使用する粃米への農薬の使用について（平成21年4月20日付21消安第658号・21生畜第223号関係課長通知）」および「稲発酵粗飼料に係る農薬使用について（令和4年12月22日付4畜産第2047号畜産局飼料課長通知）」に記載された使用方法等に従う。

本病の特徴や防除対策の詳しい内容については、茨城県農業総合センター農業研究所発行の下記マニュアルもご参照ください。

「イネ縞葉枯病防除マニュアル（茨城県版）」

https://www.pref.ibaraki.jp/nourinsuisan/noken/documents/r3_shimahagare_manual.pdf



「イネ縞葉枯病防除マニュアル（茨城県版）～指導者向け～」

https://www.pref.ibaraki.jp/nourinsuisan/noken/documents/r3_shimahagare_manual_syosai.pdf

